

## グラタンおばあさんとまほうのアヒル

安房 直子/作 いせ ひでこ/絵 小峰書店

グラタンが大すきなおばあさんは、まいばん、グラタンを作<sup>つく</sup>って食べました。お気に入りのグラタンざらには、エプロンをかけた黄色いアヒルの絵がついています。このアヒルはふしぎなアヒルで、エプロンのポケットからざいりょうをだしたり、おさらからとびだすこともできるのです。ある日、アヒルは、おもしろいことをさがしにでかけました。



## とりになった きょうりゅうのはなし

大島 英太郎/さく 福音館書店

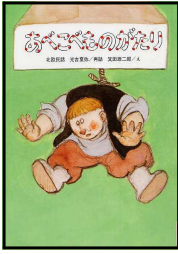
おおなむかしに生きていたきょうりゅうの中には、犬やねこくらいの大きさで、ふさふさした「うもう」がはえているものもいました。そして、木の上で生かつし、さらに長い年月で、空をとべるようになりました。やがて大きなきょうりゅうはしんでしまいましたが、とぶことができる小さなきょうりゅうは、いまでもすがたをかえて生きのこっているのです。



## あべこべものがたり (北歐民話)

光吉 夏弥/再話 箕田 源二郎/え 大日本図書

むかし、あるところにフリツルさんという、とても気むずかしい、おこりっぽい人がいました。おかみさんのすることはなんでも気に入りません。そのうえ、おかみさんがしているうちのなかのしごとは、楽だとおもっていました。そこで、つぎの日、しごとをとりかえることにしました。フリツルさんは、おひるごはんのじゅんびや、赤んぼうや牛のせわなどを、しょうずにできるでしょうか。



## もりのへなそうる

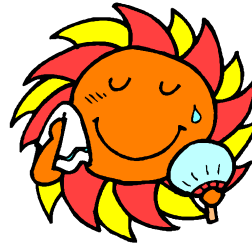
わたなベ しげお/さく やまわき ゆりこ/え 福音館書店

ある日、てつたとみつやのきょうだいは、森へたんけんにでかけ、大きなたまごを見つめます。つぎの日、おにぎりの入ったリュックサックなどをもって、またでかけると、かおがカバのようで、首はキリンのように長い、「へなそうる」という、へんないきものにであいました。2人はへなそうるといっしょにあそびます。



# なつやすみに よんでみよう!

2023年  
1・2年生用



## なつのゆきだるま

ジーン・ジョン/文 マーガレット・プロイ・グレアム/絵 ふしみみさを/訳 岩波書店

ふゆのさいごのゆきの日、ヘンリーとおにいさんのピートは、小さなゆきだるまをつくりました。ヘンリーはそのゆきだるまを、ピートにはないしよで、れいとうこかくしました。そして、7月になり、ヘンリーは、そのゆきだるまを町の人に見せることにしました。



## 世界でいちばん やかましい音

ベンジャミン・エルキン/作 松岡 享子/訳 太田 大八/絵 こぐま社

むかし、世界でいちばんやかましかったガヤガヤのみやこで、いちばんやかましいことがすきなのは、ギャオギャオ王子さまでした。王子さまは、たんじょう日に、「世界でいちばんやかましい音をききたい」といいます。そこで、王さまは、世界じゅうの人たちに、同時に、「ギャオギャオ王子、おたんじょう日おめでとー!」とさけんでもらうことにしました。



## トラのじゅうたんになりたかったトラ

ジェラルド・ローズ/文・絵 ふしみみさを/訳 岩波書店

インドのジャングルにすんでいるととったトラは、えものがとれなくて、ほねとかわばかりにやせていました。夜、王さまのきょうでんのまどからのぞくと、王さまとかぞくがおいしそうなおはんを食べていて、うらやましくおもいました。ある日、めしつかいが、トラの毛がわのじゅうたんをほしているのを見て、トラはじゅうたんをかくし、じぶんがせんだくひもにぶらさがります。



## きょうりゅうが学校にやってきた

アン・フォーサイス/作 熊谷 鮎司/訳 むかいながまさ/絵 金の星社

トムが、きょうしつまの外のながめながら、きょうしつをよくのこをかんがえていると、木立からきょうりゅうがあらわれました。そのきょうりゅうは、子ウシくらいに小さくて、スキップしながら、きょうしつに入ってきました。こうちょう先生は、学校からきょうりゅうをいやすために、はくぶつかんとどうぶつえんにでんわをかけます。

